

日本教育方法学会

第56回大会プログラム

前日 10月9日 (金)	18:00	全 国 理 事 会 (オンライン開催)			
	19:30				

第 一 日 10月10日 (土)	9:10	課題研究Ⅰ 子どもの当事者性から学びと育ちを問う			課題研究Ⅱ 授業のオンライン化は 子どもの学びをどう変えるのか		
	11:25	休 憩					
	12:20	自由研究 1	自由研究 2	自由研究 3	自由研究 4	自由研究 5	自由研究 6
	15:00	休 憩					
	15:40	第56回大会開催にあたって (代表理事・大会校挨拶)					
	15:50	シ ン ポ ジ ウ ム 危機的状況によって問われる授業と学力					
	18:20						

第 二 日 10月11日 (日)	9:00	自由研究 7	自由研究 8	自由研究 9	自由研究 10	自由研究 11	自由研究 12
	12:10	休 憩					
	13:00	課題研究Ⅲ 小規模校から「共に学ぶ」ことの 意味を問い直す			課題研究Ⅳ 教育方法学の教育方法学を、教育方法学者として どのように考え、実践するか		
	15:15	休 憩					
	15:30	ワークショップ1 辞書引き学習ワークショップ vol.4			ワークショップ2 授業逐語記録にもとづく 比較授業分析		
	17:00						

2020年10月10日(土)・10月11日(日)
於 宮崎大学 (オンライン開催)

大会参加要領

- 1. 会場案内：**2020年度第56回大会宮崎大学大会は、全プログラムをオンラインにて開催いたします。オンラインの開催にあたり、Zoom というオンライン会議システムを利用いたします。オンライン上の「日本教育方法学会第56回宮崎大学大会オンライン会場」を、学会大会の開催会場といたします。大会期間中は、それぞれのオンライン環境にて学会にご参加ください。
- 2. 受付：**学会 HP より、9月30日までに事前申し込みをしてください。
 - ・学会 HP：<https://www.nasem.jp/56th-meeting/>
 - ・受付は、日本教育方法学会 HP「第56回大会」「大会参加申し込み」ページにて行います。
 - ・受付期間は、9月1日（火）～9月30日（水）です。
 - ・大会参加費（『大会発表要旨』代を含む）は、一般会員4,000円、学生会員3,000円です。
 - ・当日会員（臨時会員）の受け付けはございません。9月30日時点での会員の方のみお申込みいただけます。9月30日までに入会の手続きをお済ませ下さい。
 - ・大会参加費は、ゆうちょ銀行への口座振込にて受け付けております。
口座名：日本教育方法学会
口座番号：01340-0-3467
※通信欄に「第56回大会参加費」とご記入ください。
- 3. オンラインでの参加方法：**「日本教育方法学会第56回大会宮崎大学大会オンライン会場」よりご参加ください。
上記の大会参加「受付」をしてくださった方に、
 - ・10月5日（月）以降に、『大会発表要旨』をお送りいたします。
 - ・10月5日（月）以降に学会参加のための URL をお送りいたします。
 - ・10月5日（月）以降に学会参加のための URL = 「日本教育方法学会第56回宮崎大学大会オンライン会場」に入るためのパスワードをお送りいたします。
- 4. 研究発表：**発表会場につきましては、「日本教育方法学会第56回宮崎大学大会オンライン会場」にて部会別の参加 URL を掲示いたします。
 - ・自由研究の発表時間は以下の通りです。
個人研究：発表20分 質疑10分
共同研究：発表30分 質疑10分
（但し、口頭発表者が1名の場合は個人研究に準じます。）
 - ・自由研究における共同研究発表者の氏名にある○印は、口頭発表者を表しています。
 - ・発表資料は、発表者各自で Zoom の「画面共有」機能を利用してご提示いただけます。
- 5. 全国理事会：**オンラインでの開催となります。
 - ・理事には、別途、「2020年度全国理事会オンライン会場」の Zoom の URL とパスワードをお送りいたします。
- 6. 総会：**報告事項・議題の資料については、別途、大会期間中にご案内いたします。
 - ・主な議題：会務報告、2019年度決算、2021年度予算案、次期大会校。
- 7. 会員懇親会：**第56回大会では会員懇親会は開催いたしません。
- 8. 『教育方法49』：**本年度の学会費を納入された方には、『教育方法49』を郵送いたします。

課題研究 I

子どもの当事者性から学びと育ちを問う

コーディネーター・司会者

西岡 加名恵 (京都大学)
湯浅 恭正 (中部大学)

提案者

上森 さくら (金沢大学) 当事者として立ち上がる生活指導と教師の役割
田中 容子 (京都大学特任教授) 子ども(生徒)を主人公にする授業作り
(元・京都府立園部高等学校指導教諭)

指定討論者

新井 英靖 (茨城大学)

〈設定趣旨〉

子どもを学びと育ちの主体＝発達の主体として捉える主張は繰り返しなされ、この間、本学会でもアクティブ・ラーニング論の検討をはじめとして議論がなされてきた。しかしながら、現在、急速に進んでいる授業のスタンダード化やゼロ・トレランスといった改革については、子どもたちから学びと育ちの当事者性を奪う危惧も指摘されている。「誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学び」(文部科学省)等の政策についても、学びと育ちの当事者性を促進することになるのかどうかを検討されねばならない。

そこで今、子どもたちの当事者性を保障するために、学校をどう改革するかが問われている。「子どもの権利条約」から四半世紀を経た今、社会学・福祉学における当事者性の議論を前提にしながら、子どもが学びと育ちの当事者になり、当事者性を発揮するための学校・学級空間とは何かを探る教育方法学研究と教育実践が求められていると考える。

本課題研究では、発達の当事者にとってのカリキュラムとは何かを中心にして、教科指導・生活指導・インクルーシブ教育といった視座から、当事者としての学びと育ちを促す教育実践と研究の在り方をどう展望すればよいのか、その手がかりを得たい。

課題研究Ⅱ

授業のオンライン化は子どもの学びをどう変えるのか

コーディネーター・司会者

大野 栄三 (北海道大学)

小柳 和喜雄 (関西大学)

提案者

野中 陽一 (横浜国立大学) 授業のオンライン化の基盤となる地域、学校の情報化

山本 朋弘 (鹿児島大学) 一人1台の情報端末活用が定着した先進地域が取り組む授業のオンライン化

〈設定趣旨〉

情報インフラの整備はまだ地域ごとに差があり、ICTを活用した教育に対する小中学校の対応は自治体、学校によってばらつきや温度差があった。そのような中、2019年12月以来、GIGAスクール構想が語られ、1人1台の高速ネットワークにつながったコンピュータ等の授業での活用が、より大きな波として押し寄せてきた。さらに新型コロナウイルス感染拡大によって、ICTを活用したさまざまな教育が全国各地で展開され、授業のオンライン化（インターネットを使ったさまざまな形の授業の提供）は、身近且つ緊急な課題として意識化されてきている。

上記のような状況の中で、本課題研究では、あらためて、ICTを活用した初等、中等教育の現在までの状況をデータなどに基づきながら把握すると共に、とりわけ現在の関心事となっている「授業のオンライン化」、それは子どもの学びをどう変えるのかという問いに対して、自治体や学校の取組の実例をもとに、明らかになりつつある研究知見や課題を議論していく。

10月10日(土) 12:20~15:00

自由研究1

司会者：田 淵 久美子 (活水女子大学)
富士原 紀 絵 (お茶の水女子大学)

- 12:20 ① 本間良助の創造主義裁縫教育論
— 創作主義図画教育論との関連に着目して —
清 重 め い (東京大学大学院)
- 12:50 ② 今井誉次郎におけるリアリズム論の特質
瀬 川 千 裕 (神戸大学大学院)
- 13:20 ③ 授業記録をもとにした授業研究による子どもの思考過程の解明の可能性と課題
— 北海道大学砂沢グループと名古屋大学重松グループの比較を通して —
○石 原 正 敬 (名古屋大学・研究員), 柴 田 好 章 (名古屋大学)
- 13:50 ④ 近代日本における尋常小学校の「夏休帖」等に関する研究
深 谷 圭 助 (中部大学)
- 14:20 ⑤ 授業研究を「核」とする学校づくり運動に関する総合的研究
— 斎藤喜博所蔵資料の検討 —
狩 野 浩 二 (十文字学園女子大学)

自由研究2

司会者：折 出 健 二 (愛知教育大学名誉教授)
川 地 亜弥子 (神戸大学)

- 12:20 ① 学校空間におけるトランスジェンダーの身体性に関する一考察
櫻 井 瀬里奈 (広島大学大学院)
- 12:50 ② 児童生徒の経験したカリキュラムをいかに見とるか?
— 文化心理学に焦点を当てて —
星 瑞 希 (東京大学大学院)
- 13:20 ③ 米国における文化の差異に対応した教育の展開
— パリスによる culturally sustaining pedagogy を中心に —
金 井 香 里 (武蔵大学)
- 13:50 ④ インクルーシブな社会を実現する学校づくりの論点
— ドイツ・ブレーメン州の試みに着目して —
福 田 敦 志 (大阪教育大学)
- 14:20 ⑤ 「子どもの自分くずしと自分づくり」と算数・数学の教科連携
井 上 正 允 (元 佐賀大学)

10月10日(土) 12:20~15:00

自由研究3

司会者：池野 範 男 (日本体育大学)
樋口 裕 介 (福岡教育大学)

- 12:20 ① デイバートを用いた社会科学習
— より良い社会を主体的に考えていく —
渋谷 あゆみ (杉並区立永福小学校)
- 12:50 ② 問題解決学習における話し合いの進展過程の分析
— 発言の相互関連の可視化 —
埜 壽 志 保 (名古屋大学)
- 13:20 ③ 社会科単元展開における教師の実践的思考と子どもの学びに関する考察
坂井 清 隆 (福岡教育大学)
- 13:50 ④ 教室での「討議 (話し合い)」にはどのような教育的意義があるのか?
— システムによる生活世界の植民地化への抵抗の現象学的解釈 —
田 端 健 人 (宮城教育大学)

自由研究4

司会者：秋 田 喜代美 (東京大学)
西 岡 けいこ (香川大学)

- 12:20 ① ダイナミック・アセスメントに基づく小学校英語授業の談話分析
柴 田 和 樹 (静岡大学大学院)
- 12:50 ② テキストマイニングを用いた校内授業研究会における教師の発話の分析
○前 田 菜 摘 (早稲田大学大学院) 浅 田 匡 (早稲田大学)
- 13:20 ③ エビデンスと現象学的教育学
宮 原 順 寛 (北海道教育大学)
- 13:50 ④ 発言と解釈を接合する分析手法の提案
— 日比らの授業諸要因とその関連構造にもとづく手続き —
坂 本 將 暢 (名古屋大学)
- 14:20 ⑤ 中間項を用いた授業分析による発言の意図・含意・文脈の解明
○柴 田 好 章 (名古屋大学) ○丹 下 悠 史 (愛知東邦大学)
○田 中 眞 帆 (小田原短期大学) 石 原 正 敬 (名古屋大学)
水 野 正 朗 (東海学園大学) 埜 壽 志 保 (名古屋大学)
○花 里 真 吾 (愛知県立千種高等学校 / 名古屋大学大学院) 坂 本 將 暢 (名古屋大学)

10月10日(土) 12:20~15:00

自由研究5

司会者：鹿毛雅治(慶應義塾大学)
鄭谷心(琉球大学)

- 12:20 ① ロイス・サドラーによる形成的アセスメント論の検討
石田智敬(京都大学大学院)
- 12:50 ② グイネス・ヒューズ(Gwyneth Hughes)のイプサティブ評価(ipsative assessment)
北川剛司(奈良教育大学)
- 13:20 ③ 国際バカロレア中等教育プログラム(MYP)における形成的評価の動向
有馬実世(お茶の水女子大学大学院)
- 13:50 ④ キャリア・ポートフォリオの構成要素の解明
ー 公立H学園H中学校開発担当者へのインタビュー調査を通して ー
○清水克博(愛知教育大学) ○胡田裕教(大阪産業大学)
○角田寛明(東北学院大学)

自由研究6

司会者：田代高章(岩手大学)
松下佳代(京都大学)

- 12:20 ① 授業のオンライン化が促進する教育方法の摸索
ー 学習者の意識調査を通して ー
安谷元伸(四條畷学園短期大学)
- 12:50 ② Design Thinking と関わる複合的な学習のデザインの課題設定と評価方法に関する研究
小柳和喜雄(関西大学)
- 13:20 ③ Instructional Rounds を用いた小規模校間における初任者育成の組織化に関する検討
○宮橋小百合(和歌山大学) 廣瀬真琴(鹿児島大学)
木原俊行(大阪教育大学) 深見俊崇(島根大学)
- 13:50 ④ 資質・能力を育成するためのオンライン学習
ー 本学研究プロジェクト校, 附属福岡小・小倉中の実践を通して ー
○豊畷啓司(福岡教育大学) ○柴田康弘(福岡教育大学附属小倉中学校)

10月10日(土) 15:50~18:20

シンポジウム

危機的状況によって問われる授業と学力

コーディネーター・司会者

柴田好章(名古屋大学)

田上哲(九州大学)

司会者

田上哲(九州大学)

提案者

柴田好章(名古屋大学) ウィズコロナ・ポストコロナ時代の授業論・学力論の展望
—「今、ここにいる、私たちの学び」が意味するもの—

芦谷浩一(元・福岡県直方市立上頼野小学校) 「学び」を育む授業づくりについて

安彦忠彦(神奈川大学) 学校を捉え直す—公教育と私教育の観点から—

〈設定趣旨〉

コロナ禍という想定外の危機的状況のなか、私たちの社会や暮らしの様々な局面でこれまでのあり方を根本的に問い直さざるを得ない事態が生じている。教育に関しても多くの学校が長期間の休校を余儀なくされ、再開された学校でも、例えば児童生徒が密接する対話的な学習はできず、休み時間も友達同士互いに近づきすぎないようにしなければならない。

学校における従来のような教育や生活が成り立たないこのような状況のなか、ICTを活用した教育のオンライン化による対応等が模索されているものの、子どもたちの学力の低下や格差の拡大が懸念されている。ただ従来の点数で測られ比較される学力は、この間の生活や様々な応対における、自分自身を含めた様々な立場の人々の判断や行為を自覚的に分析すれば、想定外の危機に対しては充分に働くものではないのではないか。

本シンポジウムは10月10日開催予定である。それまでにコロナ禍が収束しているか見通しは定かでない。たとえコロナ禍が収束したとしても、このような想定外の危機的状況を経験したことは、これまでの授業や学力を問い直し、形式的にはなく実質の本質的に新たなものとしてとらえ直していく契機となるであろう。本シンポジウムでは、理論的実践的にこれからの授業と学力について検討したい。

10月11日(日) 9:00~12:10

自由研究7

司会者：石井英真(京大)
中野和光(美大)

- 9:00 ① 量の指導原理の再検討
中島淑子(愛知文教大)
- 9:30 ② 特別活動と「学級目標」の関連的・系統的指導に関する一考察
— K小学校の実践事例の分析をもとに —
大村龍太郎(東京学芸大)
- 10:00 ③ 教員養成大学における大学運動部の在り方に関する一考察
— 「学習する組織」からみた女子バスケットボール部の事例をもとに —
梶井大輔(桃山学院教育大)
- 10:30 ④ 1951年版学習指導要領におけるクラブ活動の位置付けについての考察
— 木宮乾峰(文部事務官)の学級を単位としたクラブ活動構想 —
白尾裕志(琉球大学教職大学院)
- 11:00 ⑤ 教科の本質を見据えた手づくりの授業デザインに挑戦する教師の創造性
— 構造の発見をともなった知識構築または知識創発の過程 —
○水野正朗(東海学園大) 副島孝(愛知文教大)
- 11:30 ⑥ 「構成活動」を原理とした音楽科授業におけるイメージの発生源の検討
○横山真理(東海学園大) ○鈴木健司(東海中学校)

自由研究8

司会者：遠藤貴広(福井大)
三村和則(沖縄国際大)

- 9:00 ① 個別テーマが設定される探究的な学習活動における教師の支援
— 生徒との対話に着目して —
新居池津子(東京大学大学院)
- 9:30 ② 英国におけるSTS教育の再検討
— J・ソロモンの所論に着目して —
鎌田祥輝(京大大学院)
- 10:00 ③ ドイツにおける多視点的授業(Mehrperspektivischer Unterricht)の批判的発展
— 理論モデルの拡大と授業案の開発に着目して —
田中怜(筑波大)
- 10:30 ④ カナダ・オンタリオ州におけるレッジ・インスピレーションの展開
浅井幸子(京大)
- 11:00 ⑤ ドイツ・バイエルン州における価値教育に関する研究
— 全体構想と実施体制と実践例について —
○藤井啓之(日本福祉大) ○高橋英児(山梨大)

10月11日(日) 9:00~12:10

自由研究11

- 司会者：庄井良信(藤女子大学)
三石初雄(東京学芸大学名誉教授)
- 9:00 ① 授業検討会における発言の比較分析による授業観の顕在化
ー モンゴルと日本の共同授業研究を通して ー
ノルジン・ドラムジャブ(名古屋大学)
- 9:30 ② 校内授業研究におけるリーダーシップ実践
ー グロンのハイブリッドリーダーシップの概念を手がかりに ー
有井優太(東京大学大学院・
日本学術振興会特別研究員)
- 10:00 ③ disposition としての専門性
池田竜介(九州大学)
- 10:30 ④ 子ども理解にかかる保育者の力量形成
ー 動画の観察により書き留めた気づきの分析を通して ー
大杉稔(大阪樟蔭女子大学)
- 11:00 ⑤ 仮説生成模擬授業で育成される学生の授業デザイン力
ー 多様な専門分野の大学教員が協働する授業を通して ー
小川由美(琉球大学)
- 11:30 ⑥ 短期大学幼稚園教育実習における実習生の学びの目標と成果
三橋功一(函館短期大学)

自由研究12

- 司会者：木原俊行(大阪教育大学)
田代裕一(西南学院大学)
- 9:00 ① 学級経営に基づく授業事象の認知の傾向に関する事例研究
ー 360度カメラ映像を視聴した退職校長2名の語りの分析 ー
○改発智也(早稲田大学大学院) 浅田匡(早稲田大学)
- 9:30 ② 教師の指導観と学級経営の関係性についての考察
ー あるベテラン小学校教師の一年間の学級経営の事例検討から ー
玉城明子(大阪市立大学大学院)
- 10:00 ③ 学級経営の困難さに関する研究
ー 特に、教職経験年数、学校規模や地域性との関連 ー
片倉徳生(北海道文教大学大学院)
- 10:30 ④ ショーンの省察的実践論における心身二元論の問題について
茂見剛(九州大学大学院)
- 11:00 ⑤ 教師視点映像記録を活用した授業実践能力育成支援の試みV
ー 授業者による事例分析に基づいて ー
○平山勉(名城大学) ○中山真樹(大阪府高槻市立桃園小学校)
○平山幸代(大阪府立東山中学校) ○後藤明史(名古屋大学)
○谷口正明(名城大学) 竹内英人(名城大学)

10月11日(日) 13:00~15:15

課題研究Ⅲ

小規模校から「共に学ぶ」ことの意味を問い直す

コーディネーター

阿部 昇(秋田大学)
竹内 元(宮崎大学)

司会

阿部 昇(秋田大学)

提案者

川前 あゆみ(北海道教育大学) へき地・複式・小規模校教育の実践と先進的可能性
竹内 元(宮崎大学) へき地・小規模校の授業づくりの実践課題
熊谷 尚(秋田市立岩見三内小学校) 少人数のよさを生かして「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくり
—小学校第5学年国語科古典教材「竹取物語」の授業実践—

〈設定趣旨〉

人口減少社会では、すでに町村内に1小学校と1中学校しかない町村も増えてきており、これ以上統廃合が進められない学校では、今後も小規模化が進んでいくことが予想されている。人口減少が進む自治体では、すでに全学年が単学級となっている学校も少なくなく、小規模化した学校の教育活動をいかに発展させるかが課題となっている。

さらに、へき地・小規模校では、地域と協働した探究活動やICT環境の整備による遠隔教育、学校間連携による授業研究などが推進されており、へき地・小規模校がもたらす可能性も提案されている。

このような状況の中で、本課題研究では、へき地・小規模校における実践に学びながら、あらためて学級で学ぶことの意味を問い直し、学習権を保障する学校の役割や授業づくりの実践課題を検討したい。

10月11日(日) 13:00~15:15

課題研究Ⅳ

教育方法学の教育方法学を，教育方法学者として
どのように考え，実践するか

コーディネーター・司会者

草原和博(広島大学)

藤江康彦(東京大学)

提案者

吉田成章(広島大学) 教育方法学の学問的固有性をいかに教えるか

渡辺貴裕(東京学芸大学) 教育方法学の実践を通じた教育方法学の教育
—教職大学院での取り組みを中心に—

〈設定趣旨〉

学問の存立基盤の一つとして，大学にその学問についての講座があることと，その学問に関する授業や研究指導が恒常的に開講されていることがあげられる。本課題研究では，大学における「教育方法学」に関する授業のありかたから研究理念や方法の継承・創発システム，なども含めた広い意味での教育方法について検討することを課題とする。具体的には，大学において教育方法学者が担当する目的の異なる「教育方法学」の授業（教職科目，専門科目）のありかた，大学院科目も含めた教育方法学講座における研究指導のありかたを検討することで「教育方法学」という学問のありようを照らし出すことを目指す。登壇者自身のそして学会としての社会的・学術的責任から「教育方法学の教育方法」，いわば“pedagogy of pedagogy”を共有し問うとともに，「教育方法学を論じる研究者が，教育者として自ら教育方法学を語り実践する」ことの意味を，自己言及的に問う場とすることを企図している。

10月11日(日) 15:30~17:00

ワークショップ①

辞書引き学習ワークショップ vol.4

企画者

深谷圭助(中部大学)

提案者

木幡延彦(ベネッセコーポレーション
小中学校事業部 辞典担当課長)

〈設定趣旨〉

周知のように、初等教育において第一言語の習得は重要であり、日本においても、初等教育における国語の占める授業時数は最も多い。

近年、グローバル化の進行に伴い、第一言語が母語ではない児童が増加することによって、第一言語の学習内容文法、語彙学習を中心としたカリキュラムに移行したり、言語教育で重要視される能力として、汎用的な論理的に物事を考える能力が強調されたりするなど、第一言語教育の在り方が問い直されるようになった。言語教育の基本は、語彙、文法的事項であり、こうした基礎的な言語教育内容をどのように児童に教えていくのかは、言語の指導にあたる教師にとって重要な課題である。

また、初等教育カリキュラムにおいて、第一言語のみならず、第二言語をも初等教育段階から教える国が増加している。日本においても例外ではなく、2020年4月より小学校における教科としての「外国語」が本格的に始まったことは周知のとおりである。複数の言語をどのように学習させるのか、児童・生徒の言語学習に対する学習意欲をどのように喚起させるのか、言語教育に関わる教師にとって共通課題となっている。

企画者は、複言語教育における共通学習方略モデルの開発、特に語彙の習得に関わる共通学習方略モデルの開発について研究・実践を進めてきている。本ワークショップはこれで4回目を数え、研究の成果と、研究成果に基づく実践の体験の場を提供し続けている。

本ワークショップでは、国内外における国語、英語教育の実践に貢献すべく開発された複言語共通学習方略モデルとしての「辞書引き学習法」の理論と実践について紹介し、実際に複言語共通学習方略モデル「辞書引き学習」(国語辞典、英語辞典)に取り組む機会を提供したいと考えている。

10月11日(日) 15:30~17:00

ワークショップ②

授業逐語記録にもとづく比較授業分析

— モンゴル算数授業における概念の理解と活用を中心に —

企画者

柴田好章 (名古屋大学)

サルカール アラニ モハメッド レザ (名古屋大学)

坂本将暢 (名古屋大学)

ノルジン ドラムジャブ (名古屋大学・研究員)

提案者

水野正朗 (東海学園大学)

副島孝 (愛知文教大学)

ダミラン プレブスレン (モンゴル・Hobby School of Ulaanbaatar)

〈設定趣旨〉

本ワークショップでは、過去9年間の国際比較授業分析のワークショップの成果をもとにし、提案者らが協同して研究を進めている比較授業分析を行う。今回は、モンゴルの算数授業の逐語記録と映像にもとづいて、比較授業分析を行い、異なる国の授業の共通性や差異を明らかにする。これを通して、文化を越えて互いに有益な知見を見いだすことをめざしている。

ワークショップでは、まず、提案者側から、分析対象授業の紹介を行う。そして、参加者も、授業逐語記録を読みながら、比較授業分析を行い、意見交換をする。今回の授業分析では、6年生の「比例」を内容とする算数授業を対象とし、学習活動を通じた概念の理解と活用に着目する。

比較授業分析によって、国を超えて、授業あるいは学習という事象における共通する知見や課題が明らかになると予想される。また、両国の教育の制度や文化的背景を考慮しつつ比較文化論的に考察することによって、授業の有する文化的固有性や共通性についても明らかになると予想される。モンゴルの授業の分析を行うことを通して、日本の授業のあり方を問うことにつながることも期待される。参加者も交えてディスカッションを行い、授業という複雑な事象に対する研究アプローチのあり方を考えたい。

日本教育方法学会刊行書籍

教育方法13.	いま授業で何が問われているか	1 9 8 3	(2,400円)
教育方法14.	子どもの人間的自立と授業実践	1 9 8 5	(2,800円)
教育方法16.	個性の開発と教師の力量	1 9 8 7	(2,400円)
教育方法17.	教育方法を問い直す	1 9 8 8	(2,900円)
教育方法18.	新教育課程と人間的感性の育成	1 9 8 9	(1,940円)
教育方法19.	知育・徳育の構想と生活科の指導	1 9 9 0	(1,709円)
教育方法20.	学校文化の創造と教育技術の課題	1 9 9 1	(1,709円)
教育方法22.	いま、授業成立の原則を問う	1 9 9 3	(1,806円)
教育方法23.	新しい学力観と教育実践	1 9 9 4	(1,806円)
教育方法25.	戦後50年、いま学校を問い直す	1 9 9 6	(1,903円)
教育方法26.	新しい学校像と教育改革	1 9 9 7	(1,800円)
教育方法27.	新しい学校・学級づくりと授業改革	1 9 9 8	(1,960円)
教育方法28.	教育課程・方法の改革－新学習指導要領の教育方法学的検討－	1 9 9 9	(1,860円)

(価格は本体価格)

〒114-0023

東京都北区滝野川7-46-1

明治図書

TEL.(編)03-5907-6620

TEL.(営)048-256-2337

『教育方法』は、大会当日、会場にて大会割引価格にて販売いたします。
この機会に多数の方々のご購入をお願いいたします。

『教育方法29』より、図書文化から出版されることになりました。

教育方法29.	総合的学習と教科の基礎・基本	2 0 0 0	(1,800円)
教育方法30.	学力観の再検討と授業改革	2 0 0 1	(1,800円)
教育方法31.	子ども参加の学校と授業改革	2 0 0 2	(1,900円)
教育方法32.	新しい学びと知の創造	2 0 0 3	(1,900円)
教育方法33.	確かな学力と指導法の探求	2 0 0 4	(1,900円)
教育方法34.	現代的教育課程改革と授業論の探求	2 0 0 5	(1,900円)
教育方法35.	学習意欲を高める授業－どのような学力を形成するか－	2 0 0 6	(2,000円)
教育方法36.	リテラシーと授業改善		
教育方法37.	－PISAを契機とした現代リテラシー教育の探究－	2 0 0 7	(2,000円)
教育方法38.	現代カリキュラム研究と教育方法学		
教育方法38.	－新学習指導要領・PISA型学力を問う－	2 0 0 8	(2,000円)
教育方法39.	言語の力を育てる教育方法	2 0 0 9	(2,000円)
教育方法39.	子どもの生活現実にとりくむ教育方法	2 0 1 0	(2,000円)
教育方法40.	デジタルメディア時代の教育方法	2 0 1 1	(2,000円)
教育方法41.	東日本大震災からの復興と教育方法：防災教育と原発問題	2 0 1 2	(2,000円)
教育方法42.	教師の専門的力と教育実践の課題	2 0 1 3	(2,000円)
教育方法43.	授業研究と校内研修－教師の成長と学校づくりのために－	2 0 1 4	(2,000円)
教育方法44.	教育のグローバル化と道徳の「特別の教科」化	2 0 1 5	(2,000円)
教育方法45.	アクティブ・ラーニングの教育方法学的検討	2 0 1 6	(2,300円)
教育方法46.	学習指導要領の改訂に関する教育方法学的検討		
教育方法46.	－「資質・能力」と「教科の本質」をめぐって	2 0 1 7	(2,200円)
教育方法47.	教育実践の継承と教育方法学の課題		
教育方法47.	－教育実践研究のあり方を展望する－	2 0 1 8	(2,000円)
教育方法48.	中等教育の課題に教育方法学はどう取り組むか	2 0 1 9	(2,000円)

(価格は本体価格)

最新刊・教育方法49.
公教育としての学校を問い直す コロナ禍のオンライン教育・貧困・関係性をまなぐす

〈内 容〉

- I 子どもの学びと生活から学校を問い直す
- II これからの学校を考える
- III 教育方法学の研究動向

〒112-0012

東京都文京区大塚1-4-15

図書文化

TEL. 03-3943-2516